

2022年11月社長会見

2022年11月18日

1. 営業・輸送概況

2. 「2025年大阪・関西万博」に向けた取り組み ～万博アクセス輸送～

3. うめきた（大阪）地下駅に導入するシステム ～インタラクティブ空間～

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入ですが、10月はコロナ前の2019年比で97.1%、11月は14日までで80.4%です。

なお、2019年は、10月1日の消費税改正による先買いの反動減と、台風19号の被害を受けて、北陸新幹線で運転を取りやめていた影響がありましたので、その影響分を除くと、10月については、2019年比で定期86.2%、中長距離74.3%、近距離は100.4%、収入計では81.6%となります。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同日比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
10月	130.3% (97.1%) 【81.6%】	131.1% (102.8%) 【100.4%】	144.1% (80.9%) 【74.3%】	107.6% (158.3%) 【86.2%】
11月(11/1~14)	120.1% (80.4%)	119.0% (95.7%)	128.3% (74.5%)	98.7% (85.7%)

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

※ () 内は、コロナ前の2019年同日比。【】内は、2019年10月の消費税増税及び台風影響を除いた2019年同日比。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

山陽新幹線は、10月が2019年比で77%、11月も14日までで77%。近畿圏は、10月が102%、11月が14日までで97%です。

なお、北陸新幹線は、10月が2019年比で141%となっていますが、先ほど申し上げましたように、2019年10月は台風の影響がありましたので、2018年比で見ますと、75%となります。

9月以降、ご利用状況は回復基調にあり、また、10月からの「全国旅行支援」や「水際対策の緩和」による効果も追い風となって、回復傾向が続いているものとみています。

引き続き、お客様に安心してご利用いただけるよう、感染防止対策に努めながら、安全運行に努めてまいります。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同日比			
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏
10月	160% (77%)	171% (141%)	185% (73%)	125% (102%)
11月(11/1~14)	144% (77%)	141% (90%)	147% (66%)	116% (97%)

※実績は速報値。近畿圏は近距離券発売実績の前年同日比。

※（）内は、コロナ前の2019年同日比。

2. 「2025年大阪・関西万博」に向けた取り組み ～万博アクセス輸送～

2025年4月13日の開幕まで、約2年半となりました「大阪・関西万博」に向けまして、この国家的イベントの成功に、私どもとしましても貢献すべく、当社グループとして、検討を深めてまいりました内容についてご紹介します。

【万博に向けた取り組み内容】

まず、万博に向けた当社グループの取り組みとしまして、大きく2つの側面がございます。

1つ目は、万博会場へお越しになるお客様を、安全・快適にご来場いただけるための「万博アクセス輸送」を担っていくということです。

2つ目は、万博が目指す未来社会の実現に向けて、3月以降、順次お知らせしております、うめきたを中心とした「JR WEST LABO」の取り組みの推進により、「SDGs」の達成に貢献していきたいと考えております。



【万博アクセス輸送の取り組み】

本日は、このうち、私ども交通事業者として最優先の課題、役割であります「万博アクセス輸送」の取り組みを中心にご紹介させていただきます。

先月、10月17日に、万博協会から、「万博来場者輸送具体方針（いわゆるアクションプラン）」が公表されました。

この中で、万博会場となる夢洲への主要なアクセスルートとして、「大阪メトロ・中央線」のほか、私どもが運行いたします「JR桜島線とシャトルバス」を乗り継ぐルートが位置付けられました。

このルートでは、想定来場者の2,820万人に対し、私どもの桜島線をご利用いただくお客様が、最大約200万人規模の来場者になると想定しており、これらの計画実現に向けまして、お客様の安全確保を最優先に、万博アクセス輸送を支える交通事業者として、次の取り組みを計画しています。

1つ目は、JR桜島線において、列車を増発し、輸送力の増強を図ります。これまで、概ね1時間あたり片道9本のダイヤ設定でしたが、万博期間中は、最大12本運行することを検討しています。

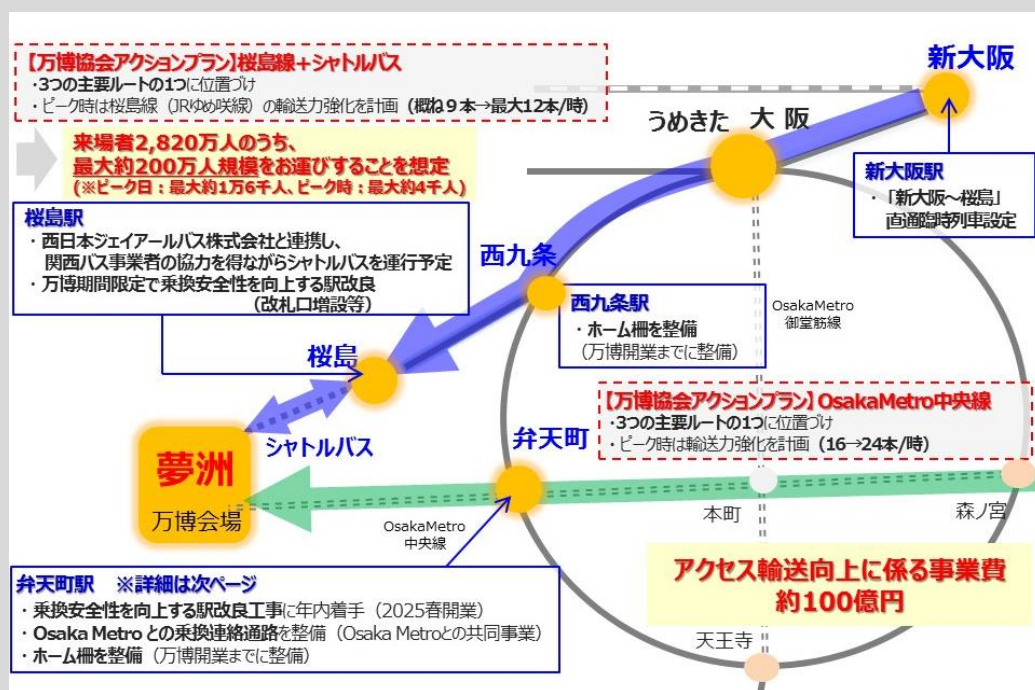
さらに、新大阪駅から、東海道線支線・うめきた大阪駅、大阪環状線・西九条駅を経由して、桜島線・桜島駅に直通する臨時列車を設定し、新幹線からの利便性も向上させていきます。

そして、桜島駅からのシャトルバス輸送では、グループ会社である西日本ジェイアールバスと連携し、ピーク日のピーク時間帯では、「桜島線とシャトルバス」を乗り継ぐルートで、1時間あたり4,000人規模の万博アクセス輸送を担う計画です。

また、桜島駅では、万博期間限定で改札を増設し、乗り換え時の安全性と利便性を向上させます。

さらに、大阪環状線と桜島線の乗り換え駅である西九条駅についても、全ての乗り場にホーム柵を整備し、ホームの安全性向上を図ります。

2つ目は、大阪メトロ・中央線との結節点となる大阪環状線・弁天町駅において、駅の改良工事を実施するとともに、全ての乗り場にホーム柵を整備します。万博期間中は現在の3倍を超えるお客様の乗り換えが見込まれますが、これにより万博期間中のピーク時間帯においても、乗り換え時の安全性と利便性の向上を図ってまいります。



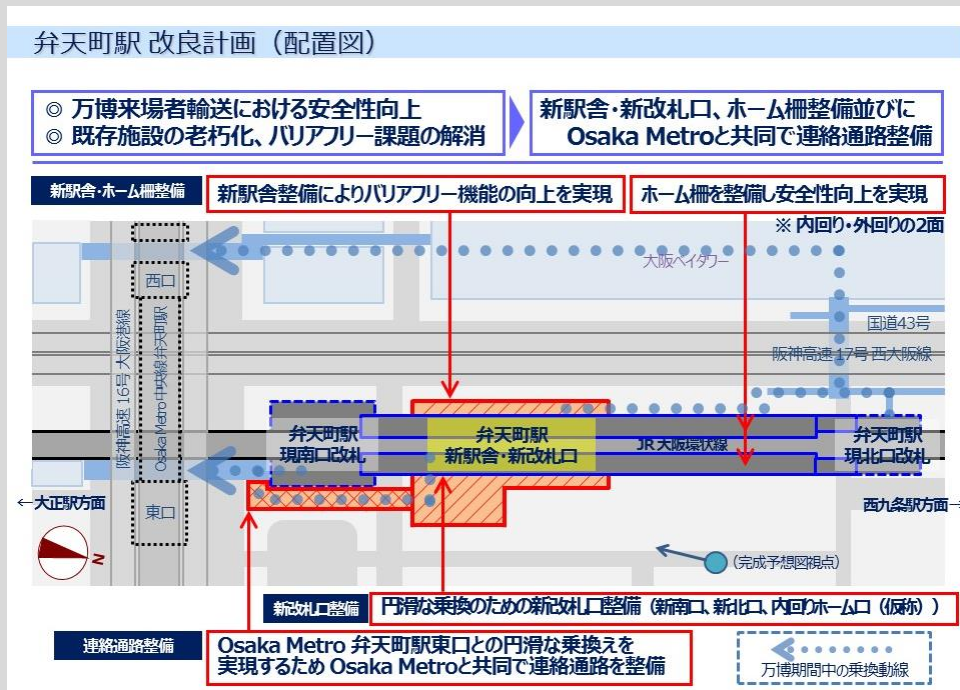
【JR 弁天町駅 改良計画】

J R 弁天町駅の改良計画の詳細についてです。

現在の駅舎の南口改札と北口改札の間に、新たな駅舎を整備し、改札口も新たに設置します。

また、大阪メトロ・弁天町駅とのスムーズな乗り換えを実現するため、段差なくフラットに移動できる乗り換え連絡通路を、大阪メトロ様と共同で整備するほか、J R 弁天町駅の内回りホームには、この連絡通路と直結する改札口も整備します。

なお、万博期間中は、新たな駅舎と連絡通路の活用に加え、既存の J R 改札と、大阪メトロ改札の移動導線により、円滑な乗り換えを実施してまいります。



そのほか、新駅舎には、エレベーター2基やエスカレーター上下4基、バリアフリースイッチ2カ所を設置し、バリアフリー機能を向上させます。

来月、12月に工事に着手し、2025年春の万博開幕前に開業する予定です。



【持続可能な万博開催に向けた取り組み】

次に、桜島線（愛称名「JRゆめ咲線」）における環境の取り組みについてです。

JRゆめ咲線を「カーボンニュートラル線区」と位置づけ、再生可能エネルギー由来の電力を活用して運行いたします。これはJR西日本管内では初めての取り組みとなります。

また、桜島駅と万博会場を結ぶシャトルバスも、脱炭素に資するEVバスを中心とした車両で運行することにより、「JRゆめ咲線とシャトルバス」による万博アクセスルートを、「ゆめ咲グリーンルート」として運行することを目指しています。

これら万博アクセス輸送に関わる事業費として、弁天町駅改良を主体に、西九条駅・桜島駅の改良やホーム柵の設置などに約100億円を投じることとしており、安全で快適、そして持続可能な万博の開催に向けて、貢献してまいりたいと考えています。

また、今後、万博を契機として、関西・近畿圏はもちろん、西日本エリア各地にも旅行していただけるような取り組みも検討してまいります。



3. うめきた（大阪）地下駅に導入するシステム ～インタラクティブ空間～

来年春に開業いたします「うめきた（大阪）地下駅」に、新たに導入するシステム・設備についてです。

「うめきた（大阪）地下駅」では、私どもの「技術ビジョン」を具体化する近未来駅として、「JR WEST LABO」を推進する共創活動に、取り組んでまいります。

今回は、「うめきた（大阪）地下駅」の改札内コンコースを彩る、リアルとデジタルを融合した「インタラクティブ空間」について、ご紹介いたします。

うめきた(大阪)地下駅

2018年3月 **JR西日本技術ビジョン**公表

※概ね20年後のありたい姿の実現を技術面から模索

2022年3月 『**JR WEST LABO**』始動

※共創、オープンイノベーションを加速

※新たな価値創造、経営課題や社会課題の解決



うめきた(大阪)地下駅＝

技術ビジョンを具体化する未来駅、JR WEST LABOの共創の中心

技術ビジョンの具体化、JR WEST LABOでの共創に活用する技術・サービスの紹介

いつもの移動に彩りやワクワク感を添え、新たな価値創造に挑戦

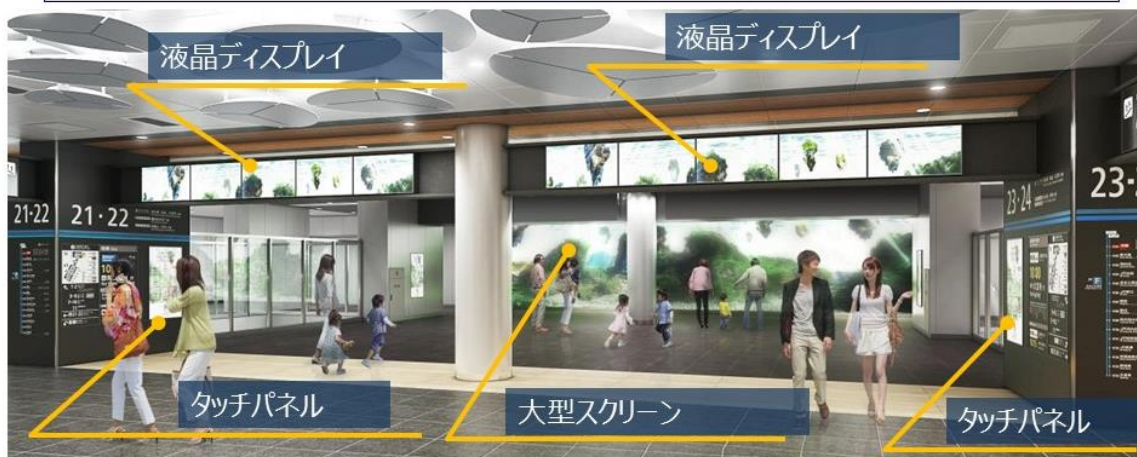
・インタラクティブ空間

【インタラクティブ空間】

このインタラクティブ空間では、「あなたを笑顔にする、駅のシンボル」をコンセプトとして、デジタル映像を活用したアート演出により、駅を訪れるお客様の日常を彩り、癒しやワクワク感をお届けし、時間価値を創出します。

メインとなる大型スクリーンは、幅14m、高さ3・3mの大きさと、これを壁一面に設置するほか、液晶ディスプレイ10台、タッチパネル6枚を配置し、これらを連動させて、迫力ある映像を体感していただけるようにしたいと考えています。

「あなたを笑顔にする、駅のシンボル」をコンセプト
日常を彩り、癒しやワクワクを感じいただけるアートを演出



- ◆大型スクリーン・・・ワイド14m、高さ3.3m(プロジェクタ4台分)
- ◆液晶ディスプレイ・・・スクリーンと連動した5連×2組の天井吊り下げディスプレイ
- ◆タッチパネル・・・合計6箇所、お客様とのタッチポイント

【表現する4つのシーン】

実際の映像としては、未来駅に相応しい、実写の「リアル映像」と、CGの「デジタル技術」とを融合した映像により、「水の都・大阪」をイメージした「光の水景」を表現します。

「光の水景」は、ありのままの自然と創作とをテーマにした「大地」「草原」、また自然と都市との調和をテーマにした「無垢」「都市」からなる4つのシーンで、悠久な「自然」から未来の「都市」に進化していくストーリーを表現します。これら4つのシーンをそれぞれ、時間帯に応じた映像に変化させて表示します。

またこれに加えて、例えば、大型スクリーンに人が近づくと、スクリーンの映像に泡が生じる演出が起きたり、タッチパネルに触ると、大型スクリーンに季節に合わせて桜や花火が出たり、フォトスポットが表示されるなど、お客様の動きに反応した空間演出を行います。

地下駅コンコースの空間を最大限に活用して、スクリーンの前で、迫力ある臨場感や、まるでそこにいるかのような没入感をお楽しみいただけます。

表現する4つのシーン

- 未来駅に相応しい、リアル(実写)とデジタル(CG)とを融合した演出
- 水の都・大阪をイメージした「光の水景」を表現
- 悠久な「自然」から、未来の「都市」に進化していくストーリー

ありのままの自然と創作



自然と都市の調和



- ◆時間帯に応じて変化
- ◆センサーやタッチパネルと連動し、お客様とのインタラクションを実現

【JR WEST LABO 共創フィールドとしての活用案】

また、「JR WEST LABO」共創フィールドのシンボルでもある「インタラクティブ空間」を、共創パートナーとのコラボレーションにも活用します。

例えば、各地の観光振興を目的とした「地域とのコラボレーション」や「デジタルマルシェ」、また「健康」「アウトドア」などのイベントや実証実験など、様々な共創チャレンジに活用します。

うめきたエリアの玄関口となる「うめきた（大阪）地下駅」では、この「インタラクティブ空間」を含め、最先端の技術を取り入れた未来の駅づくりを進めています。

いつもの移動のひとつときに彩りを添え、ワクワク楽しんでいただける駅にしていきたいと思っています。ぜひ、来年春に開業いたします「うめきた（大阪）地下駅」にご期待いただければと思います。



(例)観光誘発



(例)デジタルマルシェ

(その他例)健康、アウトドア、教育、環境など、様々な分野でのコラボレーション

◆JR WEST LABOのシンボルとして、共創パートナーとのコラボレーションを実施



◆分割した枠に、同時に複数のコンテンツを表現することも可能